

稲淵地区災害復旧事業現地説明会に関する概要

件名	稲淵地区災害復旧事業現地説明会(稲淵川・県道泊崎半島線・稲淵漁港(町))
日時	平成 24 年 9 月 6 日 (木) 17:15 ~ 18:30
場所	館浜仮設集会所
出席者	南三陸町歌津 稲淵地区住民 (約30名)出席

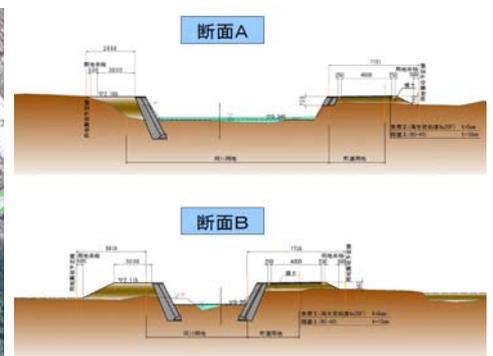
概要	<p>1. 説明会の目的</p> <p>稲淵地区において気仙沼土木事務所と南三陸町役場が各々管理する稲淵川、県道泊崎半島線及び町道等の公共土木施設及び稲淵漁港がありますが、昨年の大震災により甚大な被害を受けました。よって災害復旧事業申請を行い、現在復旧施設の設計を進めています。その設計について大方の概要がまとまってきたため、地域住民の方々に災害復旧内容を説明し、各事業への御理解と御協力を求めました。</p> <p>2. 住民からの質問・意見</p> <p>①海岸堤防の高さをTP8.7mとした理由は？</p> <p>②TP8.7m以上の津波がきた場合は、結局飲み込まれてしまうのでは？</p> <p>③堤防により海が見えなくなり、避難する者が減ってしまうのでは？</p> <p>④町道や県道は避難路としても重要であるため、早急に復旧してほしい。</p> <p>⑤治山海岸を復旧する際は消波ブロックも合わせて復旧してほしい。</p> <p>3. 気仙沼土木事務所からの回答</p> <p>①数十年～百数十年に一度程度の比較的高い頻度で起こる津波を対象として津波痕跡調査やシミュレーションを行い、対象海岸ごとに高さを決定しています。この高さの津波については、人命のみならず、背後地の財産、産業活動を守ることを目的としています。</p> <p>②被災前より堤防の高さが高くなった分だけ、陸地側へ入る津波の水量が減少することと、堤防の背後地が浸水するまでの時間を稼ぐことができ、その間に避難できるようになる、といったメリットがあります。</p> <p>③情報伝達の方法を検討したり防災教育を行うといったソフト対策で対応していきたい。</p> <p>④早期復旧に向け努力して進めていきたい。</p> <p>⑤治山海岸の所管である振興事務所農林振興部へ伝えます。</p>
----	---



稲淵川 航空写真



稲淵川 標準断面図



説明会の状況

